



公益社団法人

日本語教育学会

2020年度日本語教育学会春季大会

2020年5月30日(土)・5月31日(日)

一橋大学国立キャンパス(東京都国立市)

共催：一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター

◆開会式 30日(土) 13時 兼松講堂◆

開催校挨拶：阿部仁氏(一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構
国際教育交流センター長)

会長挨拶：石井恵理子(公益社団法人日本語教育学会会長)

司会：横山紀子(公益社団法人日本語教育学会大会委員長)

日本語教育学の輪郭を描く

公益社団法人日本語教育学会では、日本語教育に関わる社会的研究課題の一つとして、日本語教育学の体系的枠組みについて検討してきました。本大会では、この枠組みの深化および明確化を目指し、「日本語教育学の輪郭を描く」をテーマに据えました。言語学、教育学、心理学、社会学など多分野が複合的に関わる日本語教育学が学術的にどう位置づけられるのか、また、多面性を持つ日本語教育学がどのように社会に貢献できるのかについて、大会参加者各人が考える機会となれば幸いです。

一般公開プログラムは、「根を深くはり、梢を見上げる 日本語教育学の樹よ育て」と題し、日本語教育学の広がりをもした樹形図を使いながら、日本語教育学の全体像、すなわち「輪郭」を描くことを試みます。さまざまな領域でさまざまな立場から日本語教育学を支えてきた6名の専門家が登壇し、一般の参加者にもわかりやすい言葉で日本語教育学の実際と未来への夢を語ります。

大会発表では、一般応募による発表に加えて、標記テーマの下に34件の発表が予定されています。これらの発表が会場内外での議論へと発展し、日本語教育学の枠組みの捉え直しと再構築へとつながることを願っております。

公益社団法人日本語教育学会会長 石井恵理子

目 次

開催のご挨拶	1
開催概要／目次	2
大会日程	3
一般公開プログラム	4
発表一覧：パネルセッション	5
発表一覧：口頭発表	6
発表一覧：ポスター発表	10
同時開催イベント	13
キャンパス案内図	18
会場配置図	19
会場への交通案内	21

◆大会参加にあたり、手話通訳者・託児等の費用助成を希望する場合は、規程及び要領等をご確認いただきまして、所定の期日までに申請をお願いいたします。その他、なんらかの配慮を要する場合は、4月10日までに下記大会事務局までご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できませんのでご了承ください。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（学生証をお持ちの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】一律 5,000 円
- ◆懇親会費：【事前登録（先着 80 名）※お支払い時に手数料がかかります】
 - 一律 3,000 円
- ◆事前登録期間：2020 年 4 月 16 日（木）～ 5 月 15 日（金）
- ◆問合せ先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（前日まで）
090-1999-3315（当日のみ）

◆大会日程◆

5月30日(土)

9:00										
10:00	10:00-12:00 兼松講堂 一般公開プログラム (無料)									
11:00										
12:00	12:10- 東2号 2階: 2206 *わか ばさん	12:10-13:00 兼松講堂 開会式 授賞式	13:00	13:00-13:50 兼松講堂	14:00	14:00-15:30 兼松講堂 東2号2階2201,3階2301 東1号1階1101 パネルセッション 第1部	15:00	15:45-17:15 兼松講堂 東2号2階2201,3階2301 東1号1階1101 パネルセッション 第2部	16:00	17:30-19:00 マーキュリーホール 懇親会
17:00										
18:00										

* 印のイベントの概要は、13～17ページをご覧ください。

5月31日(日)

9:00										
10:00	9:30-12:00 東1号2階1201,1202, 3階1301,1304 口頭発表午前の部 (各発表30分)									
11:00										
12:00	12:10-12:50 東1号 2階1201,1202, 3階1301,1304 *科研申請書 *グローバル人材奨 励70万円, 他	12:10-13:20 東1号3階1305 *Net-J (無料) 12:10-13:20 東1号3階1307,1309 *ぷらさだわかば	13:00	13:30-16:00 東1号2階1201,1202, 3階1301,1304 口頭発表午後の部 (各発表30分)	14:00	14:30-16:00 東1号3階1302,1303,1314-1316 ポスター発表 第3部	15:00			
16:00										
17:00										
18:00										

12:00-17:00
東2号1階: エントランス, 2階 2203
* 賛助会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)
東1号1階: 学生ホール
受付 *わかば・コンシエルジュ (12:00-16:00)

9:00-11:00
東1号4階1414
代議員総会

8:45-15:00
東1号3階: 1302-1303前・1318
* 賛助会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)
東1号1階: 学生ホール
受付 *わかば・コンシエルジュ (8:45-14:00)

* 無料でご参加いただけます。

根を深くはり、梢を見あげる 日本語教育学の樹よ育て

5月30日(土) 10:00 ~ 12:00 兼松講堂

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

私たちの日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。様々なテーマとトピックに渡る学会の活動分野は、大きな樹にたとえることができるかもしれません。その樹のあちらこちらで、私たち言語教育研究者・実践者たちは、頭を悩ませ、実践やデータに向き合い、悩み、明日の社会を夢見ています。2019年には、日本語教育推進法が成立しました。日本語教育学の樹は、より深く広く根をはり、より高く梢を伸ばしていかなければなりません。

本プログラムでは、学会の活動範囲を象徴的に描く樹形図を示したあとで、登壇者の方々に、それぞれの研究・実践での目的と夢を話していただく予定です。参加者それぞれの近くに、あるいは遠くにあるかもしれない枝を、花を、そしていつかみのるだろう実を、感じられる会にしたいと願っています。

登壇者（登壇順）：

藤森弘子氏（東京外国語大学）

土井佳彦氏（日本福祉大学・
NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事）

金 孝卿氏（早稲田大学）

嶋田和子氏（アクラス日本語教育研究所）

神吉宇一氏（武蔵野大学・日本語教育学会副会長）

砂川裕一氏（国際交流基金日本語国際センター所長・
群馬大学名誉教授）

司 会：

徳弘康代（名古屋大学）・山本冴里（山口大学）

本プログラムは、一般社団法人尚友倶楽部の助成を受けたものです。

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
<p>兼松講堂 司会：西口光一 (大阪大学)</p>	<p>東2号館2階2201 司会：内海由美子 (山形大学)</p>	<p>東2号館3階2301 司会：小川誉子美 (横浜国立大学)</p>	<p>東1号館1階1101 司会：三宅和子 (東洋大学)</p>
<p>①★ 共生社会のための日本語教育</p> <p>稲垣みどり (東京国際大学) 金泰明 (大阪経済法科大学) 杉本篤史 (東京国際大学) 細川英雄 (言語文化教育研究所)</p>	<p>② 中堅日本語教師研修の内容と方法</p> <p>小河原義朗 (東北大学) 黒崎誠 (ラボ日本語教育研修所) 金孝卿 (早稲田大学) 義永美央子 (大阪大学)</p>	<p>③★ 日本・韓国・欧州の外国人受入れにおける言語・社会的側面の現代的課題</p> <p>助川泰彦 (東京国際大学) 吹原豊 (福岡女子大学) 磯野英治 (名古屋商科大学) 松崎真日 (福岡大学) 的場主真 (ヴィッテンヘルデッケ大学)</p>	<p>④★ SDGs × 日本語教育—持続可能な社会の実現に向けた日本語教育の役割とは—</p> <p>毛利貴美 (岡山大学) 古川智樹 (関西大学) 寅丸真澄 (早稲田大学) 中井好男 (同志社大学)</p>

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場	第2会場	第3会場	第4会場
<p>兼松講堂 司会：徳井厚子 (信州大学)</p>	<p>東2号館2階2201 司会：市嶋典子 (秋田大学)</p>	<p>東2号館3階2301 司会：櫻井千穂 (広島大学)</p>	<p>東1号館1階1101 司会：築島史恵 (国際交流基金)</p>
<p>⑤★ 21世紀の日本語教育学を考える—視点としての「学」という観点から—</p> <p>宇佐美まゆみ (国立国語研究所) 伊東祐郎 (国際教養大学) 山本忠行 (創価大学) 林さと子 (元津田塾大学)</p>	<p>⑥★ ナラティブによる実践の可視化は何を生み出すのか—評価と社会関係構築—</p> <p>南浦涼介 (東京学芸大学) 三代純平 (武蔵野美術大学) 中川祐治 (福島大学) 石井英真 (京都大学)</p>	<p>⑦★ 教師教育の課題と可能性—外国人児童生徒等教育を担う教員の養成と研修に焦点を当てて—</p> <p>金田智子 (学習院大学) 菅原雅枝 (愛知教育大学) 仲本康一郎 (山梨大学) 鎌田美千子 (宇都宮大学)</p>	<p>⑧★ 日本語教育におけるプログラム評価の意義</p> <p>小澤伊久美 (国際基督教大学) 丸山千歌 (立教大学) 札野寛子 (国際高等専門学校) 長尾真文 (国際開発センター) 久慈恵子 (カナダ・オンタリオ教育省)</p>

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

	第1会場	第2会場
	東1号館2階1201 司会：松岡洋子 (岩手大学)	東1号館2階1202 司会：深澤のぞみ (金沢大学)
9:30 ~ 10:00	<p>①★ 留学生との交流活動を通じた地域住民の変容—日本語学校の地域社会における存在意義—</p> <p>嶋田和子 (アクラス日本語教育研究所) 高見彩子 (イーストウエスト日本語学校) 田坂敦子 (同), 森節子 (同)</p>	<p>⑤ 英語母語児童に対する入り込み指導における日本語支援員の言語選択</p> <p>新谷遥 (京都外国語大学)</p>
10:10 ~ 10:40	<p>②★ 越境的学習のコミュニティへの影響—海外の教育実習の成果—</p> <p>トムソン木下千尋 (ニューサウスウェールズ大学) 福井なぎさ (同)</p>	<p>⑥ 複言語複文化環境で育つ子どもの学びにつなげる支援に関する—考察—Audibilityと正統性に着目して—</p> <p>米澤千昌 (大阪大学大学院生)</p>
10:50 ~ 11:20	<p>③ 日本語ティーチングアシスタントの自己効力感尺度作成の試み—タイ派遣日本語パートナーズを対象に—</p> <p>古別府ひづる (山口県立大学) 大田祥江 (国際交流基金) 山下順子 (広島大学大学院生)</p>	<p>⑦ 米国の大学における日本語学習者の動機付けと文化的興味に関連性</p> <p>大住あかり (東京国際大学)</p>
11:30 ~ 12:00	<p>④ 日本語教師養成講座における通信課程と通学課程受講生の知識差—eラーニング学習に向いている理論科目の存在の可能性—</p> <p>徳田淳子 (東京中央日本語学院) 秋田美帆 (関西学院大学)</p>	<p>⑧ ビジュアル・ナラティブによる留学生の日本語学習ビリーフの研究</p> <p>水戸貴久 (別府溝部学園短期大学)</p>

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

	第3会場	第4会場
	東1号館3階1301 司会：齋藤伸子 (桜美林大学)	東1号館3階1304 司会：住田哲郎 (京都精華大学)
9:30 ~ 10:00	<p>⑨★ 理系外国人材採用を進める企業において日本人社員が外国人社員に求める日本語力—外国人社員との接触経験に焦点を当てて— 浅海一郎 (内定ブリッジ) 中川健司 (横浜国立大学) 鈴木綾乃 (横浜国立大学) 徳田淳子 (東京中央日本語学院)</p>	<p>⑬ 学習者は既習漢字の音読みと訓読みを判別できるか 萩原章子 (お茶の水女子大学)</p>
10:10 ~ 10:40	<p>⑩★ 中国の大学生による日本語の絵本作成と展覧会開催の実践報告—学生と社会がつながる新たなプラットフォームの試行— 樋佳世 (元・天津師範大学)</p>	<p>⑭ 母語を生かした日本語音声教育—ベトナム語の声調記号による日本語アクセントの表記— ドワンレホワイアイン (南山大学大学院生)</p>
10:50 ~ 11:20	<p>⑪★ ケース学習におけるファシリテーション力とは—授業における教師の発話に注目して— 多田苗美 (麗澤大学大学院生)</p>	<p>⑮ 絵描写タスクを利用した文法授業のインターアクション分析—上級クラスにおけるグループワークの実践報告— 武井真美 (東北大学大学院生)</p>
11:30 ~ 12:00	<p>⑫ 教室活動におけるナラティブ学習の可能性—中国の日本語専攻者のキャリア創出を例として— 黄均鈞 (華中科技大学) 欧麗賢 (広州大学)</p>	<p>⑯ 技能実習生と日本語母語話者の協働現場におけるコミュニケーションの比較分析—技能実習生の入れ替わりとリーダーの役割に着目して— 飯田朋子 (筑波大学大学院生)</p>

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

	第 1 会場	第 2 会場
	東 1 号館 2 階 1201 司会：橋本ゆかり (横浜国立大学)	東 1 号館 2 階 1202 司会：宇佐美洋 (東京大学)
13:30 ~ 14:00	<p>⑰★ 書き言葉における「のだ」の産出を目指して—意見文に見られる「のだ」の例から— 高恩淑 (獨協大学)</p>	<p>⑳ 初級日本語学習者のライティングにおける読み手意識 山岸愛美 (東京国際大学) 秋田美帆 (関西学院大学)</p>
14:10 ~ 14:40	<p>⑱ 中国語を母語とする上級日本語学習者の受身文の使用—日本語母語話者との比較を通して— 何月琦 (名古屋大学大学院生)</p>	<p>㉑ 母語と第二言語としての日本語による自己評価の比較—アカデミックジャパニーズとビジネスジャパニーズに関する Can-do statements 調査報告— 伊藤奈津美 (早稲田大学) 吉田暁 (城西大学) 若下智彦 (早稲田大学) 沖本与子 (同) 鈴木綾乃 (横浜市立大学)</p>
14:50 ~ 15:20	<p>㉒ 「書く」と「話す」課題の違いから見たテシマウ習得過程の中間言語の変異性—縦断的なデータを用いて— 簡卉雯 (国立台湾海洋大学)</p>	<p>㉓ CEFR の日本語への適用可能性—産出的言語活動および(言葉の) やりとりの場合— 野口裕之 (名古屋大学名誉教授) 大隅敦子 (国際交流基金) 熊谷龍一 (東北大学) 島田めぐみ (日本大学)</p>
15:30 ~ 16:00	<p>㉔ 中国語母語話者の日本語による依頼の補助ストラテジー—学習環境やレベル差に着目して— 細井陽子 (山野日本語学校) 迫田久美子 (広島大学)</p>	<p>㉕ 学習者らは日本語「ポートフォリオ」の経験をどう捉えたか—「ポートフォリオ」に対する学習者の意識と評価— 今井なをみ (早稲田大学)</p>

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

	第3会場	第4会場
	東1号館3階 1301 司会：ボイクマン総子 (東京大学)	東1号館3階 1304 司会：酒井順一郎 (九州産業大学)
13:30 ~ 14:00	<p>②⑤ 中国人ビジネスパーソンの日 本語メールでの「断り」</p> <p>宗甜甜 (日本大学大学院生)</p>	<p>②⑨★ アメリカの日本語教育の源流 を探る—太平洋戦争中のカリ キュラムとそれを支えた教育者 たち—</p> <p>村田道明 (法政大学)</p>
14:10 ~ 14:40	<p>②⑥ グループホームにおける早番 の業務と介助の談話の分析 —ミャンマー人介護職員を対象 に—</p> <p>大場美和子 (昭和女子大学)</p>	<p>③⑩★ システムとしての近代日本語 教育—マクロ的視点とミクロ的 視点—</p> <p>泉史生 (元・文藻外語大学)</p>
14:50 ~ 15:20	<p>②⑦ 介護用語の平易化のために —医学会の用語整理・統一運動 から学ぶこと—</p> <p>遠藤織枝 (元文教大学)</p>	<p>③⑪★ 日本語能力は社会参加の資 格なのか—在日パキスタン人言 語調査の分析から—</p> <p>福永由佳 (国立国語研究所)</p>
15:30 ~ 16:00	<p>②⑧★ 介護福祉士国家試験で誤答 を誘発する問題文とその読み 誤り—インドネシア人EPA 候補 者に対する調査から—</p> <p>神村初美 (ハノイ工業大学) 野田尚史 (国立国語研究所)</p>	<p>③⑫ 日本語学習者の移動性から みる「学習と人生のつながり の軸」の形成</p> <p>山内薫 (立教大学)</p>

ポスター発表 第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

第1会場

東1号館3階1302

①
JSL 児童に対する効果的な授業方法の検討—授業力があるとされる教師による JSL カリキュラムの授業談話分析を通して—

櫻井千穂 (広島大学)
李在鉉 (同)
岡崎渉 (兵庫教育大学)
永田良太 (広島大学)

②
中学校社会科教科書における抽象語の分析と授業実践の試み—日本語指導が必要な子どもたちへの学習支援に向けて—

清水友美 (宇都宮大学大学院修了生)
鎌田美千子 (宇都宮大学)

③★
多文化社会が求める教師の資質・能力—外国人児童生徒等教育の担い手に焦点を当てて—

齋藤ひろみ (東京学芸大学)
和泉元千春 (奈良教育大学)
市瀬智紀 (宮城教育大学)
浜田麻里 (京都教育大学)

④★
JSL 児童生徒の学びを支える連携の歩み—NPO と国際教室担当教員のつながりの中で生まれた合同研修会—

樋口万喜子 (横浜国立大学)
加藤真帆子 (日本語・教科学習支援ネット)
高瀬円 (横浜市立日枝小学校)
中村淳子 (横浜市立霧ヶ丘義務教育学校)
古屋恵子 (横浜市教育委員会)
細野尚子 (横浜市立本町小学校)
頼田敦子 (横浜市教育委員会)

⑤★
外国人児童生徒等教育を担う教員の多様性による養成・研修のデザイン

河野俊之 (横浜国立大学)
伊東祐郎 (国際教養大学)
川口直巳 (愛知教育大学)
中川祐治 (福島大学)

第2会場

東1号館3階1303

⑥
日本語教授法の授業研究—マイクロティーチングによる学部生の学びの考察—

稲葉みどり (愛知教育大学)

⑦
日本語学習者のための漢字語彙テスト開発—正答率とコーパス上の頻度との相関分析—

岩下智彦 (早稲田大学)
吉田暁 (城西大学)

⑧
初級日本語教育における媒介語としての英語使用—学習者向けアンケート調査の結果から—

嵐洋子 (杏林大学)
阿部新 (東京外国語大学)
田川恭識 (日本大学)

⑨
自律的動機づけと自己評価力の関連

山本晃彦 (関西大学)
末吉朋美 (元・関西大学)

⑩★
日本学の観点から捉える日本語教育学

荒井美咲 (東北大学大学院生)

第3会場

東1号館3階1314

⑪★
日本語動詞を用いたオンライン学習における学習者の解答傾向—初級から上級の自動動詞を中心に—

沖本与子 (一橋大学)

第4会場

東1号館3階1315

⑫
国外日本語教育機関におけるCan-do statements と CEFR 能力記述文の間の項目困難度比較—受容技能を例に—

島田めぐみ (日本大学)
大隅敦子 (国際交流基金)
熊谷龍一 (東北大学)
董博 (拓殖大学大学院生)
野口裕之 (名古屋大学名誉教授)

第5会場

東1号館3階1316

⑬★
I-JAS を用いた習熟度と接続詞の使用に関する調査—論理的文章執筆の支援システムの構築—

李在鎬 (早稲田大学)
伊集院郁子 (東京外国語大学)
青木優子 (東京福祉大学)
長谷部陽一郎 (同志社大学)
村田裕美子 (ミュンヘン大学)

ポスター発表 第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

第1会場	第2会場	第3会場
東1号館3階1302	東1号館3階1303	東1号館3階1314
<p>⑭★ 生活特化型日本語学習アプリの開発について—漢字から文章への縦断的学習— 沈佳琦 (大海語言学院)</p> <p>⑮★ 地域企業へのキャリア支援を見据えた地域文化理解教育の取組み—地域住民とのインタビュー活動による交流学习を中心に— 大塚薫 (高知大学) 林翠芳 (同)</p> <p>⑯ 個々のニーズに対応した寺子屋形式の授業の可能性 山田真弓 (東京都立大学)</p> <p>⑰ 在住外国人のための「求人票コーパス」を利用した求職場面の日本語の考察 亀井信一 (早稲田大学大学院生) 李在鎬 (早稲田大学)</p> <p>⑱★ 生活者への日本語支援を目的とした多読の試み—子育て世代を中心としたボランティア教室— 横山りえこ (フリーランス)</p>	<p>⑲ 日本語学習者による程度副詞「とても」「すごく」「本当に」の使い分け—I-JAS コーパス調査による母語話者との比較を通して— 日暮康晴 (筑波大学大学院生)</p> <p>⑳ 日本語の名詞修飾はどのように教えられているのか—教科書における扱いの比較分析を通して— 徐乃馨 (東京都立大学)</p> <p>㉑★ 漢字習得適性要素の解明—非漢字系学習者の漢字字形情報の記憶・処理能力測定から— 岡本英久 (東京教育文化学院)</p> <p>㉒ 日本語学習者におけるオノマトペの習得段階と学習到達目標 福留奈美 (東京聖栄大学)</p> <p>㉓ 中国語を母語とする上級日本語学習者の日本語連続文の記憶における分散効果 常笑 (広島大学大学院生)</p>	<p>㉔ 学習者による小喃パフォーマンスの指導方法の実践 畑佐一味 (バドュー大学)</p>
		第4会場
		東1号館3階1315
		<p>㉕★ 中国人留学生のキャリア意識の変化と自律性—キャリア教育との連携をめざして— 家根橋伸子 (東亜大学) 佐藤正則 (山野美容芸術短期大学) 寅丸真澄 (早稲田大学) 松本明香 (東京立正短期大学)</p>
		第5会場
		東1号館3階1316
		<p>㉖★ 『名大会話コーパス』で話されている話題の計量的分析—話題バイグラムを用いて— 中俣尚己 (京都教育大学) 建石始 (神戸女学院大学) 堀内仁 (国際教養大学) 小西円 (東京学芸大学)</p>

ポスター発表 第3部 [14:30 ~ 16:00 (90分)]

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の輪郭を描く」に関連した発表です。

第1会場	第2会場	第3会場
東1号館3階 1302	東1号館3階 1303	東1号館3階 1314
<p>②7</p> <p>日本語教師発話の分析—中級レベル授業と初級レベル授業の比較—</p> <p>立部文崇 (徳山大学) 藤田裕一郎 (朝日大学)</p>	<p>③2★</p> <p>日本語教師のスタートラインにおいて日本語学校は何ができるか—初任候補者のための新たな研修の開発に向けて—</p> <p>門馬真帆 (東京語学学校) 富谷玲子 (神奈川大学)</p>	<p>③7★</p> <p>「会話パートナー」の実践における日本人学生・留学生の学びの可能性</p> <p>久保亜希 (東京国際大学) 稲垣みどり (同), 大住あかり (同) 斉藤佑太朗 (同), 柴田冨 (同) 高野真里 (同), 横田賢司 (同)</p>
<p>②8</p> <p>ミャンマー人日本語教師研修—遠隔指導を中心とした実践報告—</p> <p>佐藤瑞恵 (横浜国立大学) 中野玲子 (ジャパンプロフェッショナルヒューマンアカデミー)</p>	<p>③3</p> <p>日本語教師と日本語学習者の授業観察視点の比較—動画アニメーションによる評価から—</p> <p>青木さやか (フリーランス)</p>	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">第4会場</div>
<p>②9★</p> <p>日本語教育学における質的研究の問題をどう読みとるか—大学院生の研究力向上支援の観点からの事例分析—</p> <p>朴在恩 (一橋大学大学院生)</p>	<p>③4</p> <p>介護現場における申し送りを使った学習指導</p> <p>増谷祐美 (にほん語でかいご共育会)</p>	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">東1号館3階 1315</div>
<p>③0★</p> <p>一般教員が語る留学生指導とその省察を促す日本語教員の役割についての考察—日本語教員による一般教員へのインタビューから—</p> <p>松本明香 (東京立正短期大学)</p>	<p>③5</p> <p>日本語教師の学びの場としてのオンラインの可能性と課題—長期間にわたるオンライン読書会の実践—</p> <p>大隅紀子 (YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち) 真鍋雅子 (同)</p>	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">第5会場</div>
<p>③1</p> <p>日本語イメージ教育プログラムにおける日本語母語話者アシスタント教師の役割—アメリカ・ポートランド公立学校の例を基に—</p> <p>勝成仁 (横浜国立大学大学院生)</p>	<p>③6</p> <p>看護実習記録の「アセスメント」における記述の特徴—接続表現に着目して—</p> <p>山元一晃 (国際医療福祉大学)</p>	<div style="background-color: #808080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">東1号館3階 1316</div>
		<p>③9</p> <p>学術論文の構成要素に関する計量的分析—日本語教育学分野の研究論文を対象に—</p> <p>三谷彩華 (早稲田大学大学院生) 滝島雅子 (同) 李在鎬 (早稲田大学)</p>

賛助会員出展ブース

〔5月30日（土）12:00～17:00, 31日（日）8:45～15:00〕

会場：30日 東2号館 1階エントランス・2階 2203
31日 東1号館 3階 1302-1303 前・1318

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助会員団体

本会には賛助会員という会員種別があり、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、53 団体が入会しています。(2020 年 3 月現在)

賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材のラインアップ展示等を行います。最新の書籍等を手にとって見られる絶好の機会かと思えます。

また、賛助会員と大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の場としてもお役立てください。

ブースは土日を通して設置していますので、会期中は何度でも、どうぞお気軽に足をお運びください。

わかば・コンシェルジュ

〔5月30日（土）12:00～16:00, 31日（日）8:45～14:00〕

会場：東1号館 1階 学生ホール

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

大会に参加してみて、わからないことや聞いてみたいことがありましたら、「わかば・コンシェルジュ」にお越しください。「どこでどんな発表をしていますか」「〇〇に興味があるんですが、どの発表を聞きに行ったらいいでしょうか。おすすめのコースを教えてください」など、大会プログラムに関する素朴な疑問や質問にお答えいたします。「わかばさんいらっしゃい」と連動しており、「わかばさんいらっしゃい」のチェックリストをコンプリートされた方に記念品を進呈いたします。大会へのご参加の記念にパネルを使った記念撮影のお手伝いもいたします。

また、他分野がご専門でこれから初めて日本語教育に関わるという方からのご質問やご相談にも可能な限り対応いたします。

2日目（5月31日）は、「ぷらさ da わかば」の申し込み受付も行います。黄色いはつぴを着たスタッフがお待ちしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

同時開催イベント

わかばさんいらっしやい

[5月30日(土) 12:10 ~ 12:55]

会場：東2号館2階2206

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。

わかばさんが研究大会に参加するときは、「どんな人が参加してるんだろう?」「一人で大丈夫かな?」「どこへ行ったらいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。学会のセンパイたちもみんなそんな経験をしてきました。そんなわかばさんたちのために、「わかばさんいらっしやい」では、大会のしくみや聞きに行く発表の選び方、その他いろいろ、研究大会の楽しみ方をわかりやすくご説明します。もちろん、「こんな基本的なこと、今さら聞いてもいいかな…」という隠れわかばさんも大歓迎ですよ。

「わかばさんいらっしやい」は食べ物・飲み物持参OK! ランチを取りながらネットワークも作りましょう。きつともっと大会が楽しくなるはずです。

ぶらさ da わかば

[5月31日(日) 12:10 ~ 13:20]

会場：東1号館3階1307・1309

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持てれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分からセンパイに話しかけたり、さらには、一対一で対話をする機会を持ったりすることは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぶらさ da わかば」です。皆さんの少し先を歩いているセンパイと、一対一で気楽に話してみませんか。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、センパイの経験談を聞いたりできる自由な空間です。当日の午前9時から大会受付に併設する「わかば・コンシェルジュ」で申込を受け付けます。先着順ではなく、9時に大会受付に集まった方で抽選を行い、抽選の番号順に話したいセンパイを選んでもらいます。参加するセンパイのプロフィールなどの詳細は学会ウェブサイトをご覧ください。

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J) 研究会紹介ブース

* 無料でご参加いただけます。

[5月31日(日) 12:10 ~ 13:20]

会場：東1号館3階 1305・1306

主催：公益社団法人日本語教育学会 学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J)は、アカデミック・ジャパニーズグループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL 漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会(事務局)の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談に乗ることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

科研申請アドバイスセミナー 「日本語教育学における科研の今とこれから」

[5月31日(日) 12:10 ~ 12:50]

会場：東1号館2階 1202

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

科学研究費助成事業として研究分野「日本語教育」で採択される研究を増やすことを目的とした企画です。「日本語教育学における科研の今とこれから」というテーマで、科研費採択経験者や審査委員経験者等から具体例を交えた情報を提供します。

科研費に採択されるためには、テーマの新規性や方法論の妥当性、申請書作成過程におけるルール遵守がきわめて重要です。この企画では、科研費申請のための注意事項、採択されるためのコツを解説し、参加者の理解を深めることを目指したいと思います。

また、最近の日本語教育学の領域やテーマ、および、採択実績のある具体的なテーマを紹介します。これをもとに、参加者に研究テーマのブレインストーミングができる機会を提供します。

以上の説明の後、参加者からの質問を受け付ける時間を設け、参加者間での疑問点とそれへの解決例を共有します。

日本語教育グローバル人材奨励プログラム説明会

[5月31日(日) 12:10 ~ 12:50]

会場：東1号館3階1304

主催：公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会

国内で日本語教育の実践や研究に取り組む若手の皆さん、実際に海外の現場に行き、日本語教育の関係者と交流したり、研究成果を共有したりしてみませんか。これからの日本語教師は、世界各国で行われている日本語教育のあり方に関心を持ち、グローバルな視点からさまざまな課題の解決を目指す姿勢が求められます。このプログラムは、そういった広い視野をもって世界各国の日本語教育関係者と協働できる人材育成を目的とする新しい企画です。これまで日本以外の日本語教育に触れる機会が少なかった若い実践者・研究者を対象とし、海外の教育機関や研究会・学会で活動するための費用を助成します。本説明会では、助成対象とする活動内容、資格や条件等、募集の概要、2019年に行った活動事例の紹介を行い、質問や疑問にお答えします。

JICA 海外協力隊：日本語教育人材としての帰国後のキャリア

[5月31日(日) 12:10 ~ 12:50]

会場：東1号館2階1201

主催：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

近年、日本における外国人材の受入れ拡大に伴い、国内外において日本語学習のニーズが拡大し、多様化しています。

このような中、派遣された国の言語や文化を深く理解し、現地の人々と協働して課題を解決しながら、開発途上国の日本語教育に協力してきた JICA 海外協力隊の日本語教育隊員は、多文化共生社会の実現に貢献する日本語教育人材として、高い期待を寄せられています。

では、JICA 海外協力隊の日本語教育隊員は、隊員活動を通じて何を学び、帰国後、日本語教育人材としてどのようなキャリアを歩んでいるのでしょうか。

本イベントでは、JICA 海外協力隊の日本語教育隊員に対する帰国後進路調査の結果をご報告し、隊員活動で得た問題意識から日本語教育研究に取り組んでいる事例、学習者の母語や文化への理解を深め、地域における日本語教育に取り組んでいる事例をご紹介します。

これらを通じ、JICA 海外協力隊の日本語教育隊員について知っていただくとともに、多文化共生社会の担い手としての可能性について、皆さんとともに考えます。

国際交流基金事業紹介： 生活日本語のための Can-do 及び新教材について

[5月31日(日) 12:10～12:50]

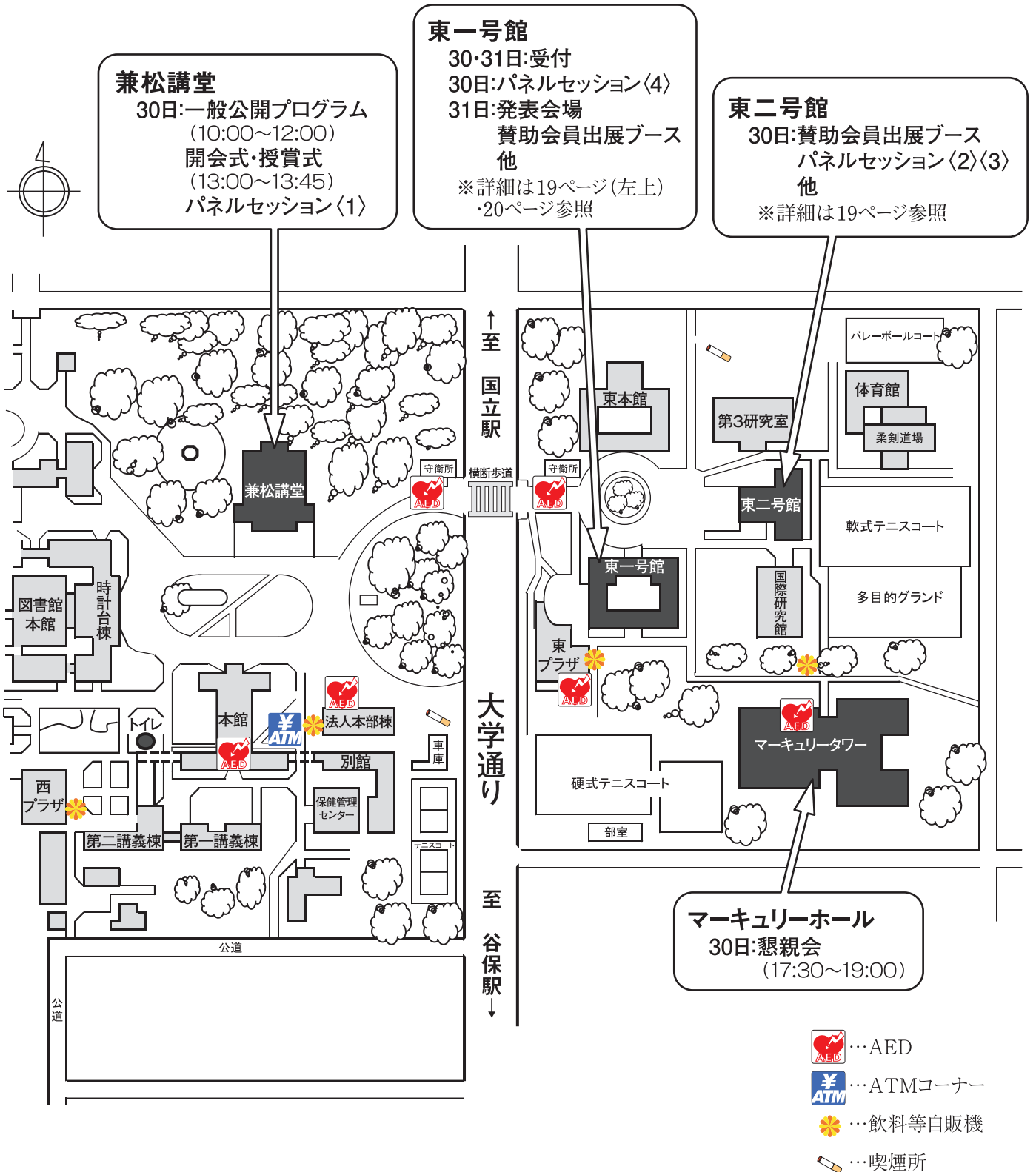
会場：東1号館3階1301

主催：独立行政法人国際交流基金

国際交流基金は、政府の外国人材の受入・共生に向けた政策の一環として、新たな取組を実施しています。具体的には、主としてアジア諸国を対象とした①日本語能力判定テスト JFT-Basic の実施、②新たな Can-do・教材等の開発・普及、③海外日本語教師の育成、及び④海外日本語教育活動強化支援、が挙げられます。

その全体概要と①の JFT-Basic についてご紹介した 2019 年度秋季大会に続き、今回は②の Can-do と教材についてお話しします。日本語を母語としない外国人が日本での生活や仕事の場面で必要となる基礎的な日本語のコミュニケーション力を Can-do の形で記述した「JF 生活日本語 Can-do」(2019 年 8 月公開)について、また、「同 Can-do」を学習目標に設定して制作した新教材『いそどろり 生活の日本語』(2020 年 3 月公開)について、ご説明します。

キャンパス案内図——一橋大学国立キャンパス



●大学構内には営業している食堂・売店などありません。周辺の飲食店をご利用いただくか、各自ご用意の上ご持参ください。ご持参の方は、以下の会場・時間帯の飲食が可能です。ご利用の際は、ゴミの持ち帰りおよび教室の美化にご協力願います。

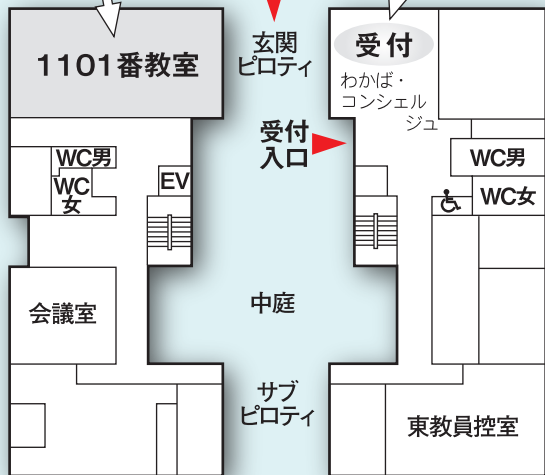
30日(土) 12:00~13:00 東一号館 1101, 東二号館 2201・2301

31日(日) 12:00~13:30 東一号館 1201・1202・1301・1304

会場配置図 (5月30日・31日) —— 東一号館・東二号館

東一号館

1101番教室
30日: パネルセッション<4>



1階

学生ホール
大会受付
わかば・コンシェルジュ
(30日: 12:00~16:00
31日: 8:45~14:00)

受付時間

30日=12:00~17:00

31日= 8:45~15:00

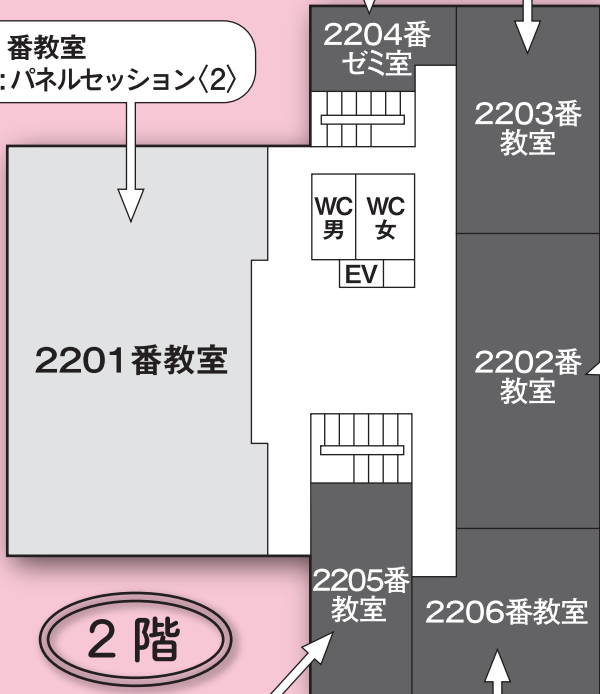
※申込・受付方法等の詳細は4月15日以降に学会ホームページで順次公開します。

※1日目に受付をされた方は、2日目は受付不要です。2日日も名札は必ず着用してください。

2203番教室
30日: 賛助会員出展ブース<2>
〔書籍展示・団体紹介等〕
(12:00~17:00
※入場無料)

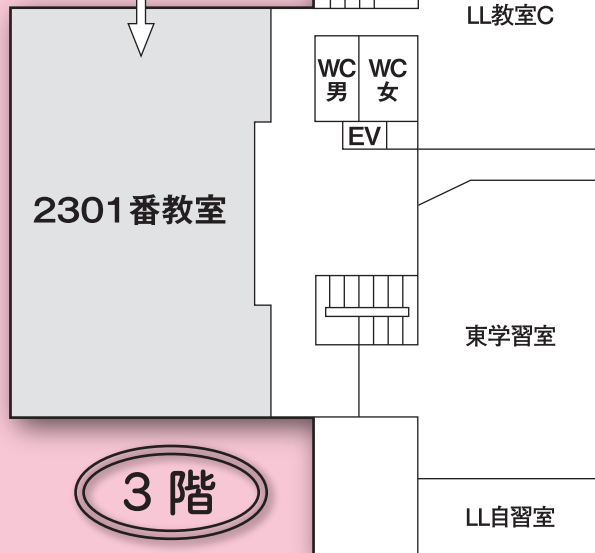
2204番教室
30日: 審査・運営協力員控室

2201番教室
30日: パネルセッション<2>



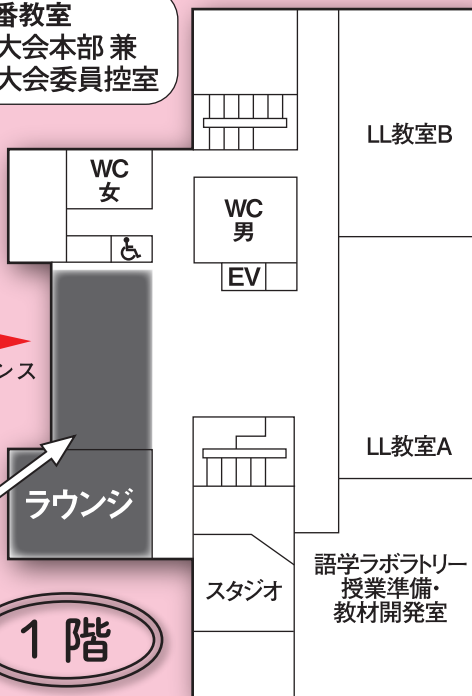
2階

2301番教室
30日: パネルセッション<3>



3階

2202番教室
30日: 大会本部 兼
大会委員控室



1階

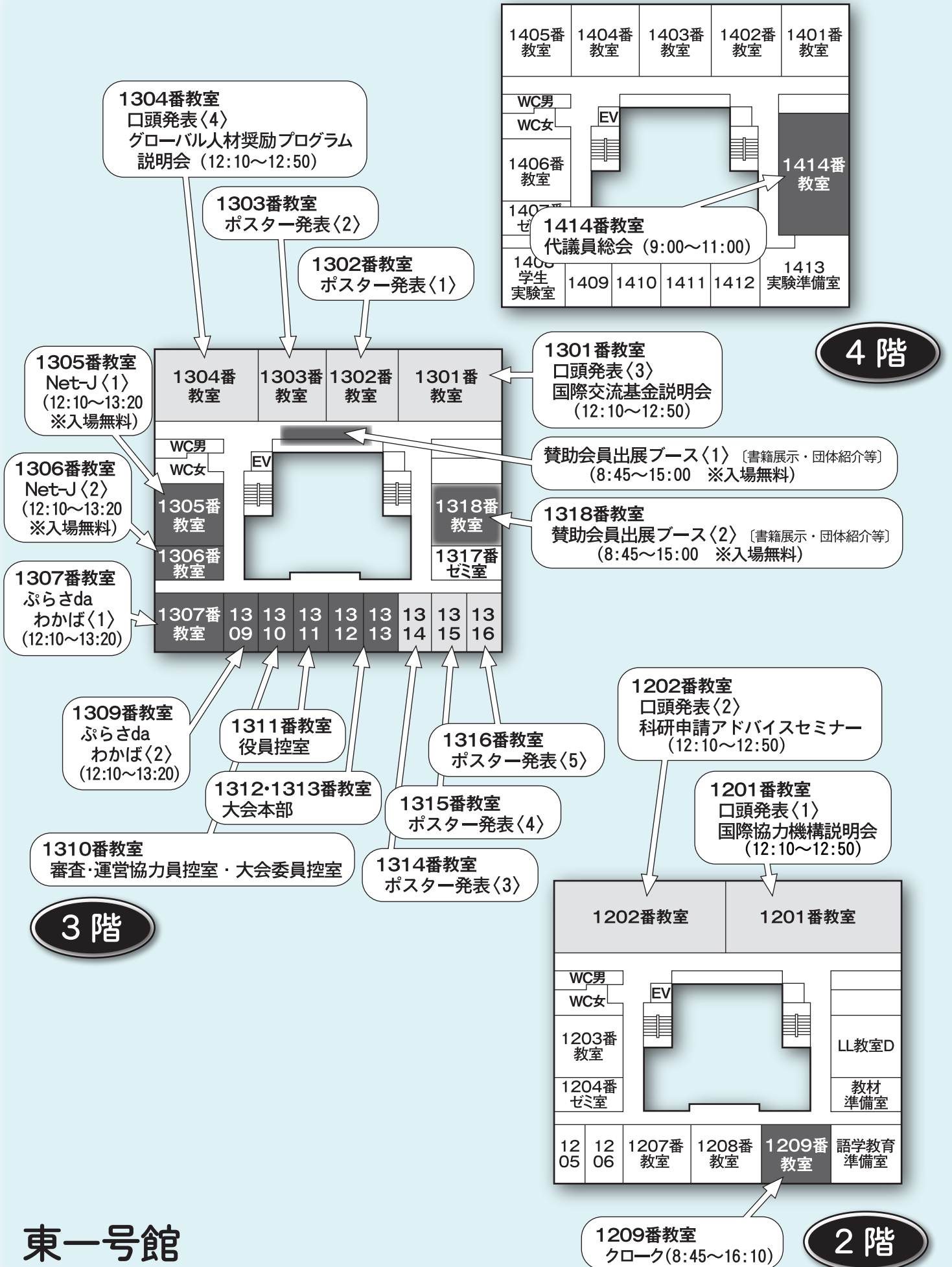
2205番教室
30日: クローク(12:00~19:20)

2206番教室
30日: わかばさんいらっしやい
(12:10~12:55)

30日: 賛助会員出展ブース<1>
〔書籍展示・団体紹介等〕
(12:00~17:00
※入場無料)

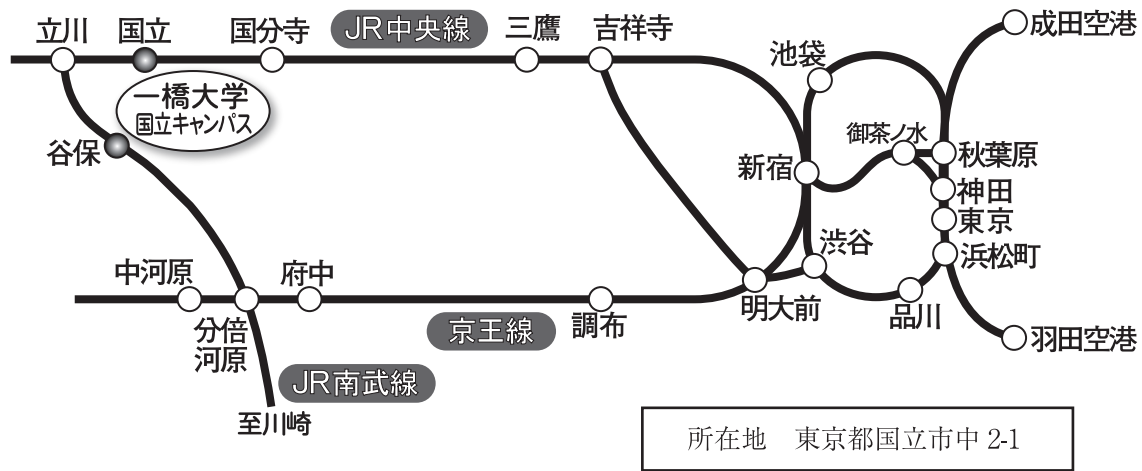
東二号館

会場配置図 (5月31日) —— 東一号館



東一号館

会場への交通案内——一橋大学国立キャンパス



◆最寄駅

- ◇JR中央線「国立」南口から徒歩10分
- ◇JR南武線「谷保」北口から徒歩25分、バス10分
(当駅までの経路案内は割愛します)

●羽田空港(東京国際空港)からの経路

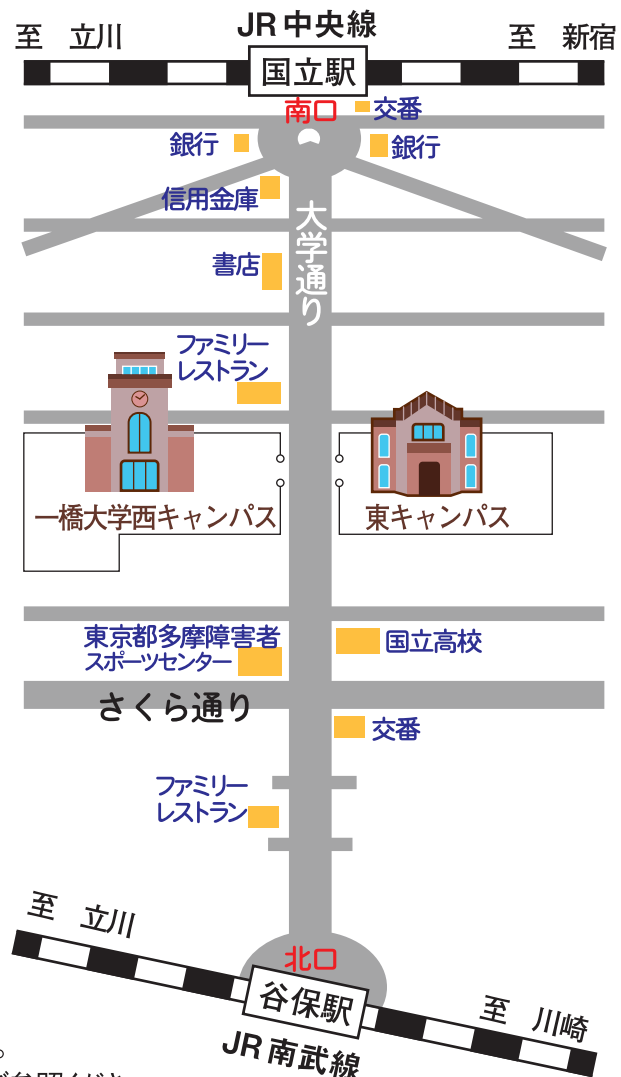
(所要時間：1時間30分)

- 東京モノレール利用
羽田空港《東京モノレール=20分》→浜松町
→《JR山手線 品川・渋谷方面=25分》
→新宿《JR中央線=35分》→国立
- 京急空港線利用
羽田空港《京急空港線=35分》→品川
→《JR山手線 渋谷・新宿方面=20分》
→新宿《JR中央線=35分》→国立

●成田空港からの経路(所要時間：2時間)

- 成田エクスプレス利用
成田空港《成田エクスプレス=80分》
→新宿《JR中央線=35分》→国立
- 京成スカイライナー利用
成田空港《京成スカイライナー=40分》
→日暮里《JR山手線 新宿・渋谷方面=25分》
→新宿《JR中央線=35分》→国立

◎所要時間は、おおよその目安として記載してあります。
◎詳細は、一橋大学の公式ウェブサイトでのご案内をご参照ください。
<https://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/access.html>



■タクシー会社

飛鳥交通多摩 0120-882-151 銀星交通 042-575-0458